第14回企画展

明倫館

30　明倫館全景　嶋田實家提供

久喜市公文書館

平成13年2月14日(水)～3月25日(日)

いいひと いいまち いきいき久喜市

「明倫館」を開催するにあたって

久喜市公文書館は、「歴史資料として重要な市の公文書その他の記録」の保存と活用を主な業務として行なっています。また、公文書等の収集、整理、保存のほかに、年２回の企画展や常設展を開催しております。

この度、１４回目を迎える企画展としまして「明倫館」を開催することにいたしました。明倫館は、明治２６年に当時の江面村に設立された中等教育を目的とした学校です。当時県内には、公立中学校はなく、東京の学校へ通わなくてはならなかったため、中等教育を受けることができたのは、裕福な家庭の子供に限られていました。そのことを憂いた宮内翁助は、中島撫山の子端蔵とともに、中等教育の学校「明倫館」を設立しました。

明倫館は、久喜市周辺の恵まれない農村の青年に中等学校に準ずる教育を施すことを目的としたため、学費も公立中学の半額とされ、その不足は宮内家の私財を投じて補っていました。昭和１０年経済情勢の変化により、その教育的使命を終えることになりましたが、ここで学んだ人々は、その後地域の政治・経済・教育などの各方面で得がたい指導者となって活躍された方がたくさんいます。明治中期から昭和初期にかけて存在し、久喜市及び周辺地域の人々に大きな影響を与えた明倫館について再認識していただく機会となれば幸いに存じます。

今回の展示では、明倫館ができるまでの背景や当時使われていた学籍簿をはじめとする資料及び歴代の館長について紹介することにしました。

最後になりますが、今回の展示を開催するにあたり、貴重な資料を提供していただきました関係者の方々に心からお礼申し上げます。

平成１３年２月

久喜市長　田　中　暄　二

協力者（敬称略・順不同）

嶋田實、田中靖男、中島元夫、早川正造、埼玉県立文書館

主な参考文献

①埼玉県教育委員会『埼玉県教育史第四巻』（1971）
②埼玉県教育委員会『埼玉県教育史第五巻』（1972）
③久喜市教育委員会『久喜市諸家文書目録』（1980）
④鷲宮町『鷲宮町史　通史　下巻』(1987)
⑤埼玉県『新編埼玉県史　通史編5　近代１』（1988）
⑥村山吉廣「古人⑦　宮内翁助」『埼玉自治　1月号』（1994）
⑦埼玉県教育委員会『埼玉人物事典』（1998）
⑧久喜市教育委員会『中島撫山関係調査報告書（1）』（2000）

Ⅰ　明倫館の設立

1　公立（郡立）中学校の設立と廃止

明治５年に、近代日本最初の教育法規である「学制」が発布されたことに伴い、埼玉県内にも明治９年までに３１８の初等教育機関が設立されました。久喜市内においても、明治６年１月に、久喜学校が設置されたのをはじめとして、７校が設立されています。

一方、当時の中等教育機関は未整備であったため、埼玉県は、中等教育振興対策として県議会の同意を得て補助金を用意し、各郡に公立中学校を設置する準備に着手しました。明治１３年７月「公立中学校設置心得」を定め、郡立中学校（実態は町村連合立中学校）を郡ごとに１校設置させる方針であることを県下各地に論達しました。しかし、時期尚早の郡もあって各郡同時発足できず、機の熟した郡から順次開設されました。明治１３年の入間高麗（こま）公立中学校を皮切りに、１４年不動岡中学校、１６年粕壁中学校などが続いて設立され、明治１８年には、埼玉県下の公立中学校は７校となりました。

しかし、明治１９年４月公布の「中学校令」では地方税支弁または補助をうけるものは各府県一校とし、かつ町村立は認めないとしたので、郡立中学校はすべて廃止せざるを得なくなり、そのため埼玉県内では、その後約１０年間にわたって公立中等教育機関に空白期が生じることになりました。

2　設立の背景

当時の埼玉県の教育状況は、小学校の設立も終わり、就学率も次第に向上し、中等教育に対する欲求も高まりつつありましたが、県内に公立中学校はなく、県立中学校設立の議案も県議会でたびたび否決されるという状況でした。

明治２９年に浦和・熊谷に県立中学校が開校するまで、埼玉県内の中等教育は、もっぱら東京府内の学校や私塾に依存せざるを得ませんでした。東部地区では、埼玉英和学校（現在の不動岡高校）と各種学校の家塾言揚学舎（明治１５年中島端蔵（たんぞう）が設立した私立学校。後に弟の竦之介（しょうのすけ）に譲り渡した。）がありました。「明倫館沿革史」の中に、「路程隔遠ノ地ニ至リテハ寄宿シテ学バサル可ラス富者ハ学資ヲ此ニ投スル事ヲ得ルモ中等以下ノ産ニ至リテハ自ラ廃学セン」とあるように、東京府内の学校に通うことは、寄宿をしなければならず、学費として相当の経費を必要とし、裕福な家庭でなければ修学が困難でした。

1「明倫館沿革史」
嶋田實家所蔵

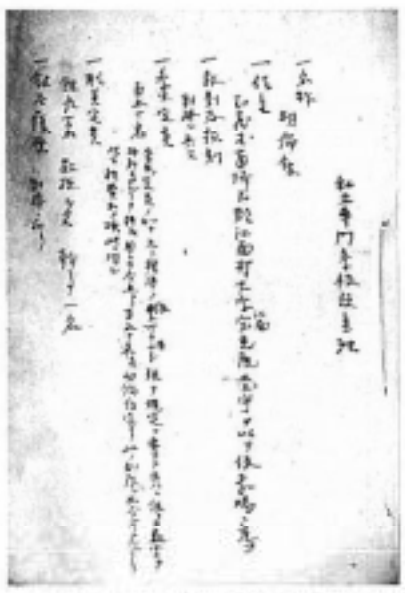
「明倫館沿革史」の一部

3　明倫館の設立

江面村の豪農で中島撫山の教えを受けた宮内翁助（おうすけ）は、このような中等教育の状況を憂い、中島撫山の子で言揚学舎の舎主をしていた中島端蔵と時勢を論じ、二人の考えは、この地域の前途ある青年のための中等教育の学校を設置することが必要であるとのことで一致しました。

宮内翁助は、明治１５年県会議員に選出されましたが、明治２５年に、中学校設置問題等をめぐって、県会が解散されたのをきっかけに、明治２６年に県会議員を辞職しています。その理由は、中等教育の充実のために明倫館を設立するためでした。

翁助は、江面村宝光院に隠棲していた中島端蔵を館長に迎え、明治２６年１０月１３日私立専門学校明倫館の設置願を県に提出しました。同年１２月４日認可され、江面村宝光院を仮教場に充て開校しました。



2「私立専門学校設置願」草稿
公文書館寄託・中島元夫家文書

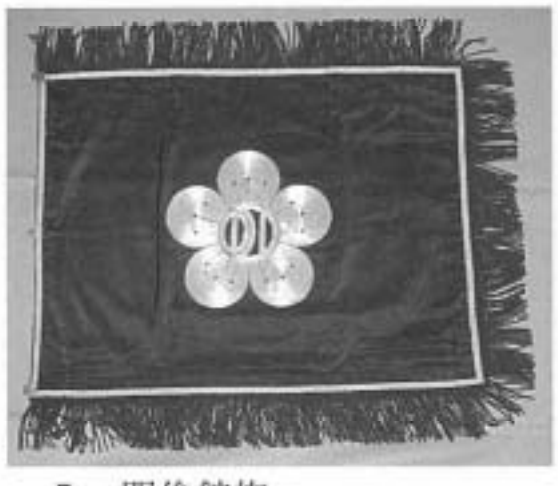
私立専門学校設置願

一、名称　明倫館
一、位置　武蔵国南埼玉郡江面村大字江面宝光院ヲ以テ仮教場ニ充ツ
一、教則及校則
　別冊ニ具ス
一、学生定員　百五十名
一、職員定員　館長　一名　教授　三名（付条）「生徒定員未満ノ中ハ仮ニ教授二名トス」　幹事　一名
一、職員俸額　館長　無俸　教授年俸　二百四十円
　幹事年俸　百二十円
一、敷地建物
　宝光院堂宇略図別冊ニ附載ス（略）
一、経費予算
　収入　一ケ年九百円　授業料
　支出　一ケ年九百円
　　内訳
一、八百四十円　職員俸給
一、六十円　雑費

「私立専門学校設置願」の一部

4　中島慶太郎（撫山）筆　扁額「明倫館」
公文書館寄託・中島元夫家文書

「明倫」の語の出典は、中国の古典『孟子』の「人倫を明らかにす」にあります。「人倫」とは「人のふみ行なうべき道」のことです。



5　明倫館旗
嶋田實家所蔵

4　設立当初の明倫館

設立当初の明倫館は、満１４歳以上で高等小学校以上の者を対象に、本科４年、研究科３年の修業年限で定員を１５０名としました。

本科の科目は、倫理・国史・漢史（中国史）・国文・漢文・外国語・算数の７科目で、研究科には、外国語と算数がなく、本朝法制・漢土法制・欧州史学・欧州文学の４科目が加わりました。

「明倫館教則」第２条に「本科ハ皇漢学ヲ修ムルヲ主ト為シ」とあることから、明倫館では、端蔵と翁助がともに父及び師である中島撫山の皇漢学を継承し、それをもって建学の根幹としていたことがわかります。また、皇漢学のほかに外国語・算数にも力を注ぎ、教育の充実を計っています。

このように、設立当初の明倫館の教科内容はかなり程度の高いもので、修学の範囲が和漢洋の三学に等しく及んでいました。

教授陣については、館長に中島端蔵、仮教授に田中鏡太郎、嘱託教授に中島竦之介（撫山の三男）が就任し、わずか３名でした。

授業料は、１年生が１ヶ月５０銭で、毎年１０銭ずつ加えられ、１円に至るとありました。

明倫館学科課程一覧表

科目／別級	倫理	国史	漢史	国文	漢文	外国語	算数	本朝法制	漢土法制	欧州史学	欧州文学
本科第一年	論語 孝経　孟子	日本史稿	支那史稿	土佐日記 十六夜日記	文章軌範	スペリング ナショナル 読本一 ロングマン 読本一二	スミス小代数書 近世算術書				
第二年	論語 孟子	同上	同上	更級日記 竹取物語 水鏡	韓柳文集 呂翠詩集	マキトン小文典 ナショナル読本 三四 ロングマン読本 三四 ニュオン読本四 ロビンソンクルソー	スミス小代数書 ショヴネー幾何学				
第三年	詩経 荀子	同上	同上	徒然草 増鏡 古今集	左伝　史記 呂翠詩集	グレートリーダー マニーレー論文 スキントン英国史 スタンリー伝記 スキントン大文典	スミス大代数書 ショヴネー幾何学				
第四年	荀子 礼記	同上	同上	枕草子 増鏡 古今集	同上	アービングスケッチブック グレートリーダー ラセラスマーチ ヤントオヴヴェ ヒス ギゾー文明史	スミス大代数書 ケーシン三角法				
研究科第一年	尚書　儀礼 礼記			源氏物語 万葉集	戦国策 李杜集			法制史	法制史稿	希臘史 史論	大家詩文集 小説　戯曲
第二年	尚書　周易 儀礼　春秋			源氏物語 万葉集 文学史稿	列子　李杜集 文学史稿			同上	同上	羅馬 独逸史　史論	同上
第三年	尚書　周易 春秋			宣命 万葉集 文学史稿	老子　荘子 李杜集 文学史稿			同上	同上	仏国史　英国史 史論	同上

Ⅱ　歴代館長

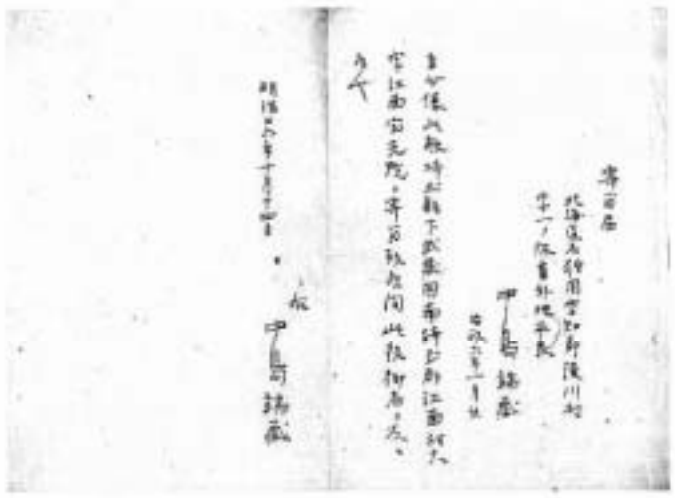
1　中島端蔵

安政６.１.２６（1859）－ 昭和５.６.１３（1930）

漢学者。江戸生まれ。中島慶太郎（撫山）の次男。

幼年のころ、亀田鵬谷に学ぶ。父撫山に従い久喜に移り、漢学塾幸魂教舎で門人の指導に当たる。明治１５年言揚学舎を設立、同２６年宮内翁助とともに明倫館を設立して初代館長となる。

設立してまもなく、明倫館が経営難になったため、館長の職を辞職した。明倫館を去った後、中国問題に熱中し、しばしば中国に渡った。『支那分割の運命』等の書や、あふれる詩才で漢詩集『斗南存稿』を著している。享年７１歳。



8「寄留届」草稿
公文書館寄託・中島元夫家文書

9『斗南存稿』
公文書館寄託・中島元夫家文書

2　宮内翁助

嘉永６.２.４（1853）－ 大正元.１２.６（1912）

衆議院議員・実業家。江面村生まれ。

芳野金陵・中島撫山について漢学を学び、明治１８年神田秀親から田宮流剣道の免許を皆伝される。戸長・副区長を経て、同１５年から３２年まで３回県会議員に選出される。

明治２６年私費を投じて江面村に明倫館を設立し、明治３２年明倫館第２代館長に就任する。中等教育の充実に力を注いだ。

明治３５年衆議院議員選挙に立候補し当選、政友会の重鎮として３期務める。実業界でも久喜銀行専務取締役、埼玉織布会社取締役等の要職を兼務した。享年６０歳。

13「履歴書（宮内翁助）」
嶋田實家所蔵

衆議院議員埼玉縣選擧得点表

氏名	得票	得点	氏名	得票	得点
宮崎鎌三郎	[illegible]	[illegible]	岡村新三郎	[illegible]	[illegible]
笠間靖	[illegible]	[illegible]	岩澤愛太郎	[illegible]	[illegible]
小澤愛次郎	[illegible]	[illegible]	横田良介	[illegible]	[illegible]
加藤政之助	[illegible]	[illegible]	井岡政	[illegible]	[illegible]
塚田啓太郎	[illegible]	[illegible]	川上藤三郎	[illegible]	[illegible]
高田早苗	[illegible]	[illegible]	鈴谷孫次郎	[illegible]	[illegible]
宮内翁助	[illegible]	[illegible]			
鈴谷義三	[illegible]	[illegible]			

以下略記載ノ順ニアラザルノ順ニ

當選者　宮崎鎌三郎　笠間靖　小澤愛次郎
加藤政之助　塚田啓太郎　高田早苗
宮内翁助　鈴谷義三　岡村新三郎

明治三十五年六月

公道倶樂部
埼葛減租同盟會

3　宮内純

明治１３.４.１０（1880）－ 昭和３７.１０.１７（1962）

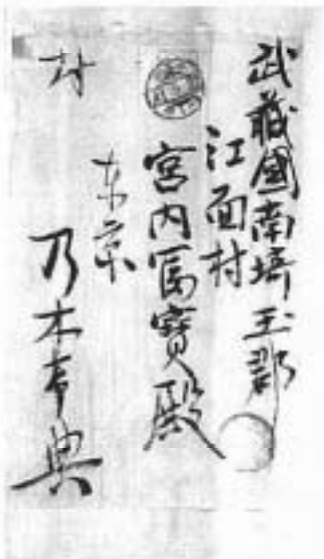
教育者・町村長。江面村生まれ。翁助の長男。

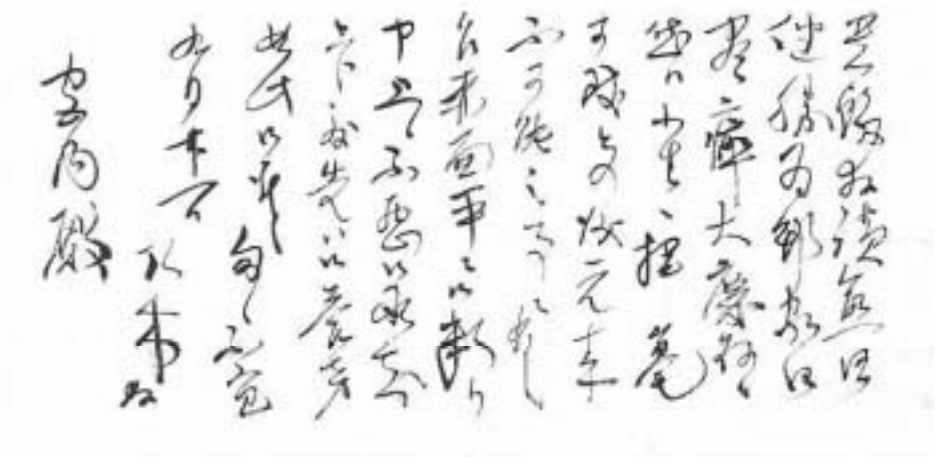
大正元年、明倫館第３代館長に就任。

剣道を小野派一刀流の剣聖といわれた高野佐三郎について学び、同門下の十剣士に選ばれる。

警視庁・各中学校の師範も務め、昭和６年には７段範士を贈られる。また、江面村長を２７年間、久喜町長を３年間務め、両町村の自治発展に貢献した。

さらに、芭蕉十哲の支考派、獅子門に入り、江面庵冨宝と号し、獅子門１３世となった。享年８２歳。





16「揮毫ニ付返答書」嶋田實家所蔵

この書状は、宮内純が陸軍軍人乃木希典（のぎまれすけ）に揮毫（きごう）（筆をふるって字や絵をかくこと）を依頼した際の乃木希典の返答書（明治４１年９月２２日）です。

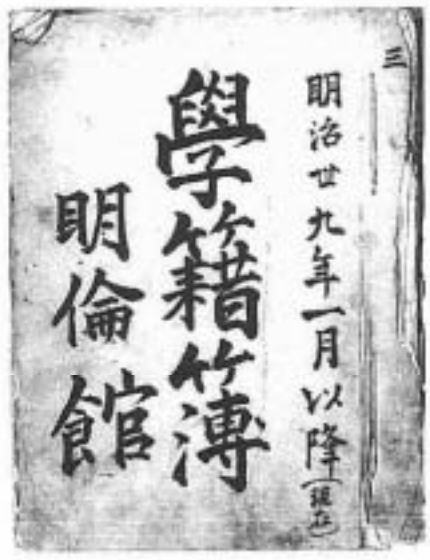
Ⅲ　明倫館の様子

1　経営状況

入学者は、定員が１５０名に対して、明治２７年が４５名、同２８年が３５名、同３０年が６５名という状況で、意欲的な試みにもかかわらず入学者は定員の三分の一にも及びませんでした。明倫館の経営は、授業料にたよるものでしたので、程なく財政的に運営が困難になり、明治３２年４月１２日中島端蔵に代わって宮内翁助が館長に就任し、経営に当たりました。

年間経費が１２００余円であるのに対して、授業料の収入はわずかに２００余円と、収支のつぐなわないものとなりましたが、翁助は明倫館の使命を重んじ、授業料は当初から公立中学の半額に据置き、その不足はすべて宮内家の私財を投じて補っていました。

大正元年翁助が没すると、子の純が館長となりましたが、経営は依然として困難を極めていました。しかし、宮内家は堅忍不抜の意志でこの学校を維持しつづけました。



20「学籍簿」
嶋田實家所蔵

入学願書
28「明倫館学則」より　早川正造家所蔵

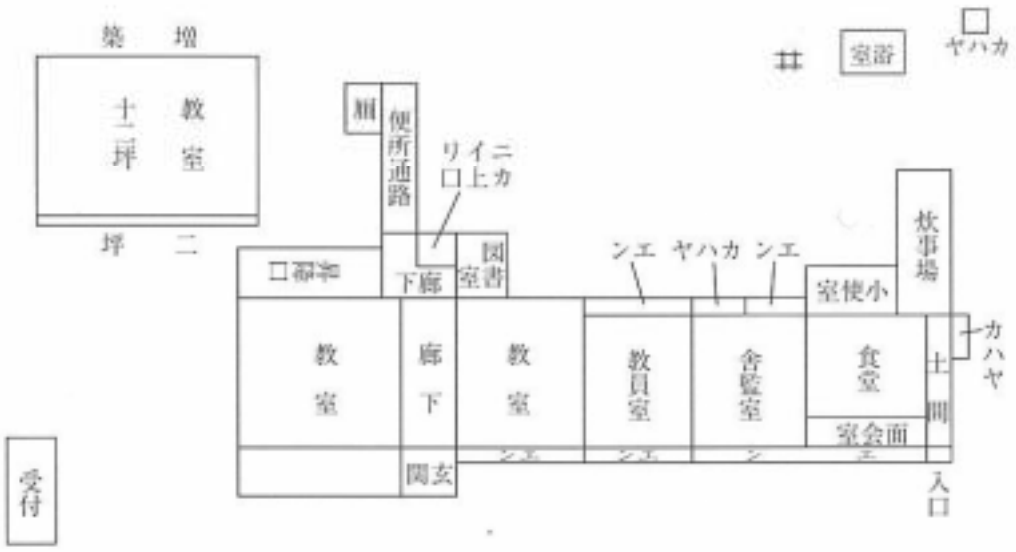
2　教育課程の変更

明治３２年「私立学校令」が公布されました。翌３３年、翁助は、明倫館の教育課程を中学校課程と適合するように変更しました。教育課程の変更理由として、「この地が三郡（南埼玉・北葛飾・北埼玉）極端（辺鄙）の地なるを以て、第四中学（後の粕壁中学、現在の春日部高校）ありといえども、少数富豪の子弟を除いては通学上に多大の不便あり。有為の若者のために、これに代る教育機関の必要あり」と力説しています。翁助は辺地の貧しい農村の子が進学できないため、一生才能を伸ばせずに終わる悲しみを深い同情の目で見ていました。そして、普通科３年課程、実業科１年課程を併置する教則の改定を行ないました。

その後、明治３９年度より修業年限を５ヵ年課程に変更しましたが、明治４４年１２月「改正小学校令」による尋常小学校６ヵ年課程の修了者を入学資格者とする４ヵ年課程に再び変更しました。しかし、明倫館の教育課程は、中学校全課程を履修させるものではありませんでした。

24「明倫館教則」田中靖男家所蔵

3　校舎の新築



明倫館校舎平面図（１階部分）

明倫館の校舎は、創立以来宝光院の本堂を仮教場として使用してきましたが、生徒の増加により明治３６年、宮内館長の所有する江面村大字下早見２７５番地に校舎を新築しました。「明倫館沿革史」によると「其ノ敷地ハ壱反九畝廿七歩ニシテ宮内翁助氏ノ所有ナリ、教室其他建坪六拾坪四合一勺六才、楼上教室及ヒ寄宿舎卅六坪五合、総計九拾六坪九合一勺六才ヲ建物トシ」とあります。

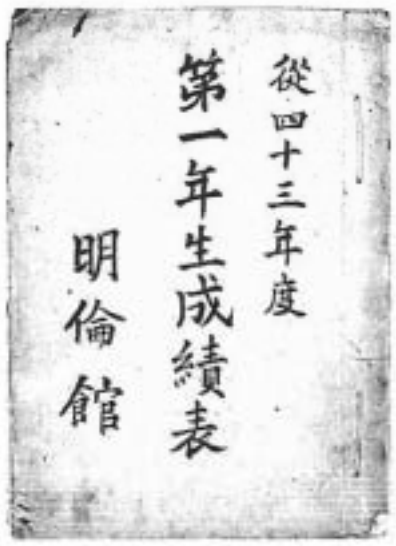
明治３６年１０月１０日監督官庁に本館の設立を出願し、同年１２月４日埼玉県知事より認可されました。１２月４日は、明倫館の創立記念日となり、明治３８年１２月４日には記念祝式が挙行されています。

4　学校の様子

(1) 授業日

「明倫館沿革史」によると、登下校の時間は午前８時登館、午後３時下館でした。学年は４月１日より始まり、翌年の３月３０日に終わり、学期は３学期に分かれ、第一学期が４月１日から７月２０日、第二学期が９月２０日から１２月３１日、第三学期が翌年１月から３月３０日までとあります。

夏季休業は７月２１日から８月３１日、冬季休業は１２月２５日から１月５日でした。



31「第一年生成績表」
嶋田實家所蔵

(2) 試験

試験は、学期試験と学年試験の２種類がありました。学期試験は各学期中に、学年試験は各学年末に行ない、各試験の評点を通算して学芸の優劣の標準とするとあります。

また、試験の成績により品行端正学芸優等な生徒を選抜して、特待生としてその学年の授業料を免除するとあります。

(3) 寄宿舎

明倫館には、寄宿舎もありました。寄宿学生は、右記の「寄宿願」を、父兄又は親族を保証人として提出します。寄宿生の中から２名以上を選び、監視整理の仕事にあたらせました。

書式
寄宿願
郡　町　村　番地
族籍戸主　男
姓名
年　月　日生
右者今般御校寄宿舎ヘ入舎致サセ度候ニ付御許可相成候ヘハ舎則堅ク相守ラセ候ハハ勿論御規定ノ舎費滞納致シ間敷候間何卒御願申上候也
右父兄（地方官ノ署ハ本籍市長役場ヲ保護人トシ署印スヘシ）
年　月　日
姓名㊞
保護人（住所）
姓名㊞
私立明倫館長　宮内　純殿

寄宿願
28「明倫館学則」より
早川正造家所蔵

(4) 儀式

三大節の儀式は、右記のように行なわれていました。三大節とは、四方拝（元日）、天長節（天皇誕生日）、紀元節のことです。卒業式及び修業式は、三大節の儀式に準じて行なっていました。

三大節ノ儀式左ノ如シ
一　一鈴　生徒着席
二　二鈴　職員着席
三　三鈴　館長着席
四　敬礼
五　館長　勅語奉読
　　此間最敬礼
六　館長両陛下ノ万歳ヲ祝シ奉ル
七　職　同
八　生徒同上
　　但シ天長節ニハ天皇陛下ノ万歳ノミヲ祝シ奉ル
九　館長祝詞
十　職員祝詞
十一　閉式

「明倫館沿革史」より

(5) 修学旅行

明倫館では、修学旅行も行なっていました。

明治３５年９月２７日の「坂東日報」によると、「明倫館中学部では、今月２７日に３・４学年の生徒５０数名が秩父山中に修学旅行をする。順路は、吉見百穴より松山を経て小川の宿を過ぎて、秩父に入る予定。一行は教師３名が付き添う。」とあります。

5　剣道を通しての教育

宮内翁助が、大正元年１２月６日、６０歳にて病死した後、第３代館長に長男宮内純が就任しました。純は、剣道を小野派一刀流の剣聖といわれる高野佐三郎に学び、剣道の達人でした。そこで、明倫館では剣道を必修とし、剣道を通して心身を鍛えるという特色ある教育を行ないました。

Ⅳ　明倫館の廃校

1　明倫館の廃校

明倫館の生徒数は、昭和初期には２００名に達しましたが、昭和６年ごろから農村不況が深刻化するとともに、県内の中等教育機関が次第に整備されてきたため、生徒数の激減を招き、ついに経営困難となりました。地域の町村は、明倫館の存立をはかるため県立移管を陳情しましたが認められず、昭和１０年３月、その教育的使命を終え幕を閉じました。明倫館は、地域的に粕壁中学や不動岡中学との中間にあって、地域的な中等教育機関として大きな役割を果たしました。

年　度	学級数	教員数	生徒数	卒業生	年限
大正６年	4	6	115	12	4年
〃　８〃	4	5	135	17	〃
〃　10〃	4	5	115	12	〃
昭和３年	4	9	200	30	〃
〃　５〃	4	9	200	25	〃
〃　７〃	4	8	120	26	〃
〃　９〃	4	8	78	28	〃

（埼玉県統計書）

明倫館生徒数等一覧
『埼玉県教育史第五巻』より

学校廃止認可申請
43「南埼・江面村私立明倫館廃止認可」
埼玉県行政文書 昭3179-121より

明倫館廃校を伝える新聞記事
（昭和10.3.16東京日日）

2　同窓生・卒業生

45「明倫館同窓会員名簿」
嶋田實家所蔵

明倫館の同窓生・卒業生については、下記の表のように、卒業者は５１８名ですが、同窓生は1,８７０名でした。

また、生徒の多くは、久喜市をはじめ県内東部地区でしたが、県南部、県西部にも分布していました。県外でも茨城県、千葉県、遠く北海道の卒業生もおり、非常に広範囲から集まっていたことがわかります。

明倫館で学んだ人の中には、その後、地域の政治・経済・教育等にたずさわる指導者として大きく貢献した人がたくさんいます。

明倫館同窓生・卒業生市町村別一覧

（明倫館同窓会員名簿より）

現市町	旧町村名	同窓生	卒業生
久喜	久喜	82	13
	太田	75	26
	江面	207	63
	清久	108	28
菖蒲	菖蒲	70	16
	小林	36	5
	三箇	97	23
	栢間	19	4
	大山(上大崎)	17	3
白岡	篠津	105	25
	日勝	89	31
	大山	34	17
蓮田	蓮田(綾瀬)	59	11
	黒浜	40	11
	平野	66	22
	河合(川島駒込)		1
宮代	百間	34	13
	須賀	62	11
岩槻	岩槻	2	
	川通	1	1
	柏崎	5	2
	和土	2	
	新和	3	1
	慈恩寺	15	6
	河合	2	
春日部	粕壁	3	
	内牧	14	3
	豊春	1	
	幸松	2	1
	豊野	1	
越谷	桜井	1	
	新方	1	
幸手	幸手	23	3
	行幸	19	9
	上高野	15	2
	吉田	20	6
	権現堂	8	2
	桜田(下中川崎)	12	3
	八代	25	6

現市町	旧町村名	同窓生	卒業生
杉戸	杉戸	8	3
	高野	14	8
	堤郷	1	2
	田宮	8	1
	八代(戸島)		2
	豊岡	3	
鷲宮	鷲宮	58	14
	桜田	53	23
栗橋	栗橋	2	11
	静	27	2
	豊田	3	
庄和	富多	1	1
	宝珠花	2	1
加須	加須	2	1
	不動岡	2	
	三俣	1	
	礼羽	2	
	大桑	23	3
	水深	11	8
	樋遣川	5	2
	志多見	1	
	大越	1	1
騎西	騎西	5	2
	穀足	8	1
	田ヶ谷	1	
	鴻茎	33	10
	高柳	15	8
羽生	羽生	2	1
	新郷		1
	須影	1	
	川俣	1	1
	手子林	1	1
行田	忍		1
	荒木	1	
	太田	3	2
大利根	東	11	3
	原道	2	
	元和	6	1
	豊野	7	4
川里	共和	2	

現市町	旧町村名	同窓生	卒業生
鴻巣	笠原		1
浦和	浦和	3	
	木崎		2
大宮	大宮	2	
	三橋		1
	大砂土	2	
	指扇	4	1
	片柳	1	
	大谷	1	
上尾	上尾	2	
	原市	13	2
	上平	11	4
	大石	2	2
桶川	加納	3	
	川田谷	1	
北本	石戸	1	
	中丸	5	2
伊奈	小針	9	3
	小室	17	
川越	大田	1	
毛呂山	川角	1	
小川	小川	1	
茨城県	水戸		1
	関宿	3	1
	五霞	32	10
	古河	1	
千葉県	二宮	1	
北海道	富良野	1	1
	計	1,870	518

展示資料一覧

Ⅰ　明倫館の設立

1　「明倫館沿革史」
2　「私立専門学校設置願」　草稿
3　「南埼・江面村私立明倫館設置許可」
4　扁額「明倫館」
5　明倫館旗

Ⅱ　歴代館長

6　写真パネル　中島端蔵
7　「私立学校教員変換願」　草稿
8　「寄留届」　草稿
9　『斗南存稿』
10　『冠辞類聚　完』
11　写真パネル　宮内翁助
12　「衆議院議員席次表(第27回帝国議会)」
13　「履歴書（宮内翁助）」
14　「衆議院議員埼玉県選挙得点表」
15　写真パネル　宮内純
16　「揮毫ニ付返答書」
17　扁額（宮内冨宝書）
18　「小野派一刀流免許皆伝目録」

Ⅲ　明倫館の様子

19　「升堂記」
20　「学籍簿」
21　「生徒名簿」
22　「第四綴　学籍簿」
23　「南埼･江面村私立明倫館修業年限学科課程入学資格文部大臣へ申報」
24　「明倫館教則」
25　「南埼・明倫館学則改訂認可」
26　「明倫館学則」（明治期）
27　「南埼･江面村私立明倫館学則改訂ノ件認可」
28　「明倫館学則」（大正期）
29　「明倫館沿革大要」
30　写真パネル　明倫館全景
31　「第一年生成績表」
32　「第一学年成績考査簿」
33　『大正国語読本　巻一』
34　『大正国語読本　巻二』
35　『新定漢文読本』
36　『新定漢文読本　巻二』
37　『最近世界地理』
38　『最近世界地理　上巻』
39　『新制中学校国史　一年級用』
40　『新制中学校国史　二年級用』

Ⅳ　明倫館の廃校

41　「中途退学者」
42　「第二学年修業退学者」
43　「南埼・江面村私立明倫館廃止認可」
44　「明倫館卒業生名簿」
45　「明倫館同窓会員名簿」
46　「私立明倫館後援会江面村支部会則」

公文書館利用案内

開館時間：9：00 ～ 17：00
休 館 日：土曜日、日曜日、国民の祝日、年末年始
（企画展の期間中は、日曜日も観覧できます）
交通案内：JR宇都宮線・東武伊勢崎線
久喜駅西口下車徒歩17分（市役所西側）

発行：平成13年2月　編集：久喜市公文書館　〒346-8501 久喜市下早見85-1　☎0480－23－5010

この図録は再生紙を使用しています。